

パソコンの利用：推理力を働かせて難しい英文の意味を理解する； 自分の英語発音の音声波形と模範の発音の音声波形を比較する ～即戦力養成のための教材の開発～ 提案者 農学部 西口 毅

教材作成の目的

これからは、新卒者も、即戦力としての技能を身に付けて、競争力を高めなければならない。そのために必要な能力としては、(1)考える力（推理力、想像力）、(2)論旨明快な分かりやすい日本語文を書けること、(3)英文の説明書等が読めることと、(4)英語が話せること、(5)情報処理機器を使えること、の五つが最も一般性が高いものであろう。この教材作成の目的は、これらの技能を自学自習で身に付ける手段を提供することである。

教材の内容

内容 1：

英文を、翻訳ソフトを用いて正確な日本語文にする練習をする。翻訳ソフトは、15種類ほどを実際に使ってみて、最もカスタマイズ能力の高いものを選んだ。使う主な操作は、別解釈表示、対応語表示、訳語変更、品詞変更・指定、フレーズ指定、フレーズ種別指定、カーソルを置いた単語の瞬間辞書検索、内蔵電子辞書類の検索、ユーザー辞書の作成、英文の分割→翻訳→再結合の繰り返し、などである。作成したテキストに簡潔に記載されている操作を丁寧に行えば、英語力が低くても、かなり難解な英文（「TIME」誌の記事を用いた）の意味の8割程度は理解できるであろう。

内容 2：

チェック表形式で示されている望ましい文章構造についての指示に基づいて、理解した英文の意味を明快な日本語文で表現する。

内容 3：

音声入力した発音の視覚化によって、英語発音を改善する。具体的には、(1)Nativeの英文や英単語の発音を聞き、その音声波形（音の強さ；アクセントを示す）とピッチカーブ（波数（音色）の変化；イントネーションを示す）をパソコンのモニター画面に表示する。(2)自分の発音をマイクから音声入力し、その音声波形とピッチカーブを見て、自分の発音の問題点を知る。(3)音声波形とピッチカーブを模範のそれに近づけるよう繰り返し訓練することによって、発音の改善をはかる。自分の発音が視覚化されるだけでなく、目標にすべき波形も明示されているので、音声だけでまねるよりも、練習するのが面白いと言える。（有用性の検定を依頼した知人（高校教師）からは、「英会話教室で外国人教師に習うよりも効率がよい」との評価を得た）。

公開講座

4種類のソフトを使ったが、それらは全て2000年に開発されたものである。最初は大学の演習室での開講を予定していたが、そのパソコンは、機種が古くて、使用ソフトと仕様が合わなかった。多人数には対応できないことは、明らかだったので、一般的な受講生の公募は行わず、6名（県庁職員3名、民間企業社員2名、コンピュータ専門学校生1名）とその同伴者を対象に、私が日常使っているパソコンを用いて個別に対応した。受講者には、満足して頂けたと思われる。

成果の利用

使用したソフトと作成した操作説明書は、今後の英語教育に役立てて頂くように、共通教育英語部会長の宮崎充保教授にお願いしてある。（今春、演習室のパソコンが更新されるので、今後は、当該ソフトを演習室のパソコンでも問題なく使えるはずである。）



登録研究テーマ「国語、英語、情報処理を一体化して行う授業」